

フィリピン沖に暖水が蓄積

—「凌風丸」による東経137度線観測の速報

気象庁の観測船「凌風丸」は、昭和42年(1967)から毎年1月に東経137度に沿った海洋観測を行っており、大気・海洋の長期変動の解明のために貴重な資料を提供している。

太平洋の中・東部赤道域では、1988年春に終息したエルニーニョに代わって、海面水温が平年より低くなるラニーニャと呼ばれる状態が継続している。今回、1987年1月20日から1月29日にかけて行われた定期観測は、ラニーニャ期の西太平洋熱帯域の海況の把握という意味で大きな注目を集めていた。

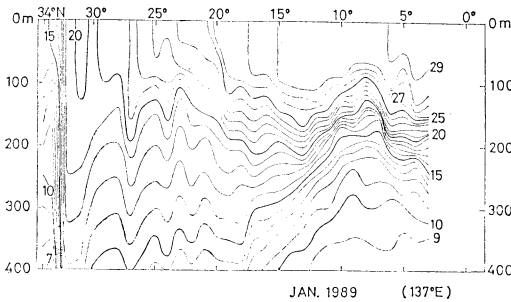
ここでは、気象庁海洋課において、リアルタイムで通報された緯度1度ごとの表層水温データに基づき解析された海況(速報)を示す。

第1図は東経137度に沿う深さ400mまでの水温の鉛直断面を、第2図はその平年値(1967年から1984年までの18回の観測の平均値)からの偏差をそれぞれ示す。また、第3図は昨年(1988年)1月の水温の平年偏差を示す。エルニーニョの末期であった昨年1月には、北緯10度

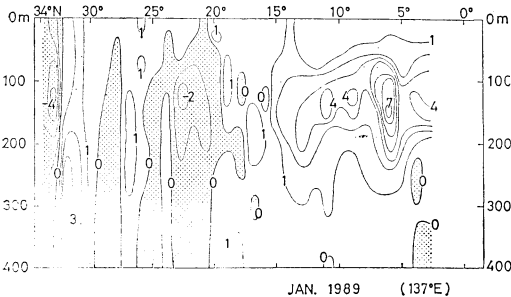
以南の熱帯域の表層水温は、水深100~200mを中心に1~6度も低く、暖水は消失していた。それと対照的に本年1月の表層水温は、北緯15度以南の広い範囲で2~7度も高くなっている。中部太平洋の赤道域では、昨年春以降平年に比べてかなり強い東風が吹き続けており、西太平洋の熱帯域の海洋表層に暖水が蓄積されていることを示唆している。

これを裏付けるのが、ハワイ大学で解析された太平洋域の海面水位偏差分布図(第4図)である。第4図は1988年12月のものであるが、西太平洋の熱帯域は広く正偏差になっており、特に137度線に近いマラカル島・ヤップ島ではそれぞれ+20cm、+27cmの高水位になっている。

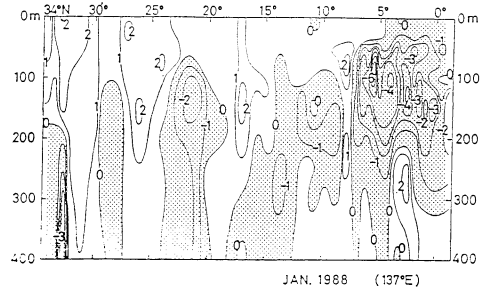
過去の凌風丸の観測からみても、エルニーニョの前後には西太平洋熱帯域の海洋表層の水温が高いことが多い。この暖水の蓄積がいつまで続くのか、どのように解消していくのか、興味がもたれる。



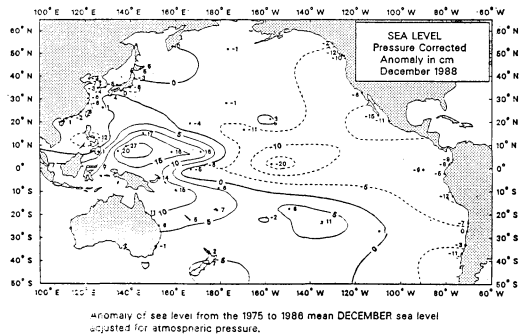
第1図 137°E線に沿った表層水温分布図(°C)(1989年1月)



第2図 137°E線に沿った表層水温平年偏差分布図(°C)(1989年1月)



第3図 第2図と同じ、但し1988年1月



第4図 太平洋域の海面水位平年偏差分布図(cm)(1988年12月)(from. ISLPP)

では若手研究員が最も多い科となり清新の気に満ちているが、内外に実績を示した旧気象科の伝統をいかに引き継ぎ発展させてゆくか、今後に期待されることである。

現在、農業気候資源の分布・変動の評価、耕地微気象の特性、耕地における CO₂ やメタンの動態、光化学オ

キシダントにもなるオゾンによる作物影響、環境評価に役立つ作物生長予測モデルの開発等の研究を精力的に進めている。また、気象管理科は、今後の重要問題である地球規模環境変動に対応する研究をリードして行くべき分野として、所内の期待が寄せられている。

1989（平成元）年度トヨタ財団研究助成の公募のお知らせ

トヨタ財団では、これまで14回にわたり、交通安全、生活、自然環境、社会福祉、教育・文化の諸領域を対象に研究助成を行ってまいりました。5年前からは「新しい人間社会の探求」を基本テーマに研究計画を募集しておりましたが、昨年度からはその中でも次の2つの課題に重点を置くことにしました。

- ① 高度技術社会への対応
- ② 多文化社会への対応

自然科学、人文科学、社会科学の諸分野の研究者や、福祉や教育の現場で実務に携わっている方々の、斬新な発想による研究計画の応募をお待ちしております。研究者の所属など、一切の資格を問いません。

なお、本助成は日本の研究者を主な対象としたものですが、何らかの点で日本と具体的な関わりのある研究であれば、外国の研究者でも応募可能です。

助成の概要

1. 助成の対象
 - ・上記の基本テーマに関する研究で第1種研究（個人

奨励研究）、第Ⅱ種研究（試行・予備研究）、第Ⅲ種研究（総合研究）の三つの研究種別があります。詳しくは応募要項をご参照ください。

2. 助成金額・期間

- ・助成金額は合計2億円程度です。
- ・助成期間は本年11月1日より1～2年間とします。

3. 助成の決定

- ・研究助成選考委員会にて慎重厳正に選考の上、9月末の理事会にて決定し、10月初旬に各申請者に文書にて連絡いたします。

応募期間・方法

- ・応募期間は本年4月1日から5月31日（水）、（当日消印有効）までとします。

詳細は下記にお問い合わせ下さい。

〒163 東京都新宿区西新宿2丁目1番1号
 新宿三井ビル37階私書箱236号
 TEL. 03-344-1701

財団法人 トヨタ財団研究助成係



第2回世界気候会議について

第2回世界気候会議が、1990年7月ジュネーブで、世界気象機関の第42回執行委員会に続いて予定されており、その組織委員会が、1988年6月ジュネーブで開かれた。

第2回世界気候会議の目標は、

① 世界気候計画の中で得られた経験を通して、気候が如何に経済活動に影響を与え、又、気候の知識が如何に有用かという点の周知徹底を計ること、

② 現在の気候変動や、温室効果などの全球的な問題についての現在の知識を評価することである。